

# 新基地建設反対名護共同センターニュース

## 憲法を守る「辺野古」の不屈のたたかい



↑講演する高良さん。←ゲート前でパネルをかざす高良さん（左から2人目）

参議院議員で憲法学者の高良鉄美さんが24日、テント村で「憲法・沖縄・辺野古を考える」と題して1時間にわたって縦横に講演しました。県民約130人が聴講しました。

**沖縄の「憲法番外地」を許さないたたかい**

【高良講演の要旨】安倍政権を継承するという菅政権になった。菅政権は安倍政権の擬態であり国民や沖縄県民にとってさらに悪化するだろう。沖縄県民は、悲惨な沖縄戦で国策による沖縄決戦でスパイ視され、非国民扱いされるなど4人に1人が犠牲となった。戦後の占領下から今日まで沖縄県民が求めてきたのは『憲法番外地』は許さないという思いだ。戦後27年間は米占領下におかれ、文字通り「憲法番外地」だった。1972年に日本に復帰して「沖縄も憲法所在地になった」と思ったが、実態は日米両政府によって広大な在日米軍基地が維持され「憲法番外地」に設定され、県民の平和と命を守る問題は残された。そのもとで県民は集会やデモ、県民大会開催の自由を求めてきた。24年もの長期にわたる不屈の辺野古新基地建設反対運動は、無意識的な沖縄住民の「憲法番外地脱却の叫び」です。辺野古のたたかいは憲法を守るたたかいそのものです。国民主権、基本的人権の尊重、平和主義の日本国憲法の原理に基づいて日本政府・菅政権は辺野古新基地建設を中止すべきだ、と声を上げ続けましょう。

高良参院議員がテント村で縦横に語る



機動隊に囲まれ「違法工事は中止せよ！」と声をあげる県民（24日）

### 県民大行動を再開します

毎月第1土曜日に開かれていたゲート前の県民大行動がコロナ禍で3月以降中止になっていましたが県の緊急事態宣言が解除されたことを受け、感染防止策をとって開催することになりました。

- 第29回県民大行動
- 10月3日（土）11時～12時
- 辺野古ゲート前

●密接、密集を避け、多人数での滞在時間を短くするために集会前後の抗議行動は割愛します。

主催・オール沖縄会議

### 「早坂氏励ます会」に45人

やんばる統一連の呼びかけで名護共同センターの早坂義郎氏（写真右）が自身の著述集「専従者として生きて」を出版したことを祝う「励ます会」が19日、名護民商会館で開かれました。赤嶺衆院議員や吉居、東恩納両名護市議、民商役員と会員、婦人部員、地域住民など45人が参加。大城ショーケンさんがギター演奏、奈良などからお花、統一連からカリユシが贈呈されました。



早坂氏は、辺野古のたたかいを振り返り、「思いもかけずにこのような会を持っていただき光栄です。この日を糧に今後も健康に留意し、頑張ります」と挨拶しました。

### 「意見書」でデニー知事を応援しよう！



**革新懇と後援会が共催し学習会**

沖縄県革新懇と沖縄県共産党後援会が共催し23日、那覇市内で新基地建設を止めるため「意見書」を書いてデニー知事を応援しようという学習会を開き、77人が参加しました。古堅実吉後援会共同代表が開会あいさつ、赤嶺政賢衆院議員（写真右）が新基地建設の問題点を明らかにし、県革新懇代表世話人の仲山忠克弁護士（同左）が「意見書」の書き方について講演しました。9月28日まで県内外の「利害関係人」なら誰でも「意見書」を沖縄県に提出できます（消印有効）。デニー知事は意見書などを参考に防衛局の設計変更申請の承認・不承認の判断を下します。